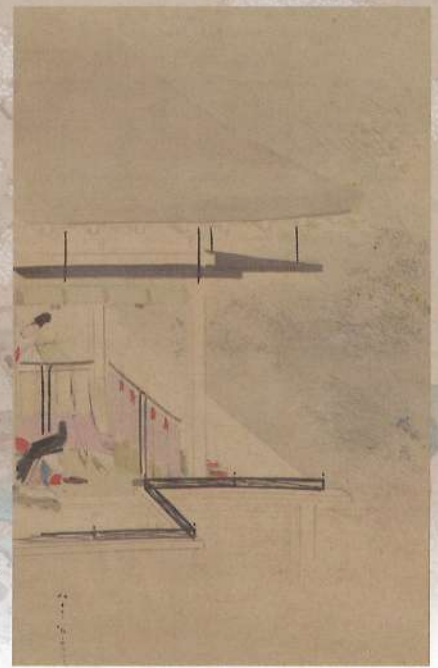


描かれた紫式部と源氏物語

『源氏物語』を絵画化した、いわゆる「源氏絵」は、紫式部による物語執筆の後、程なくして描き始められたと考えられ、「国宝源氏物語絵巻」をはじめとする、さまざまな傑作が生み出されます。江戸時代においても源氏絵の伝統は引き継がれ、おびただしい数の作品が描かれました。本企画展では、徳島藩絵師渡辺広輝や守住貫魚をはじめとする住吉派の絵師による「源氏絵」、あるいは作者・紫式部および同時代の宮廷社会に生きた人々の姿を描いた絵画作品を通じて、紫式部の時代と『源氏物語』の魅力を探ります。



藤原道長図
(紫式部日記 女郎花園)(部分)
菊池容齋筆



源氏物語 帚木図 住吉弘貫筆



紫式部石山寺観月図 守住周魚筆



源氏物語 賢木図 白波瀬汶江筆



源氏物語 松風・須磨・明石図 守住貫魚筆 遠藤徹氏寄贈



清少納言図(部分) 公文蘆淵筆

